

大東亞戰爭必勝完遂

幼児の母



昭和十八年

二月

戦時家庭の教育力

今、日本中の一切のことが、戦争を中心にして考へられ、行はれてゐることは、申すまでもありません、何から何まで、此の大東亞戦争に勝ちぬくために専念されてゐるのです。この時、家庭の生活も亦、戦時家庭でなければならぬことも當然です。寧ろ、すべての家庭が眞に戦時家庭になりきつた時、國中は戦時生活になるといつていゝのです。

その戦時家庭は、戦争中心であるために、種々のことが顧みられず、缺けて來て、我子の教育上、常時の如く充分であり得ないといつた考へが出る場合があります。ところが實際は決してさうでなく、却つて教育上いゝ結果が起るのであります。砂糖の菓子が減じて、幼児の健康がよくなつたといはれます。殊に最近の統計では、乳兒の死亡兒の数が従前に比して、ぐつと少なくなつたのです。

これらは形にあらはれ、目に見えてのことです。戦時家庭の緊張が、勤勞が、その根本である報國精神が、どの位大きな教育力を、我が子の上に及ぼしてゐるであらうかは、いふまでもないことである。ただ、それだけに、われわれの家庭が、ほんたうに戦時家庭になつてゐなかつたら、殊に假りにも戦時家庭ならうとする心が足りなかつたりしたら、その反對の結果は、どんなに恐ろしいことであらう。我が子の爲にも、こゝをしっかりと考へ、又實行しませう。

幼稚園から

○こしは炭の足りない冬です。それを何で補ひませう。幼稚園では、日なたをいっぱい利用してゐます。例年なら、陽のあつたつてゐる庭を窓の外に眺めて、炭火で燗をとつたりしたこともありませう。こしは、日光を大切に、その下で遊びませう。何んと暖い冬の日光でせう。

○ちつとしてゐては、流石に寒さを感じさうです。そこを先を越して、うんと元氣に運動して遊びませう。この方針にはお子さへ達も大賛成で、いくらでも飛び廻つて遊びませう。そして、さうでせう、ほつべを赤くして、手などほか／＼と暖かです、何んと暖い子どももの體力でせう。

○それにしても氣にして、いつもより稍々厚着にせられるのは親心でせう。たゞ幼稚園で調節し易いよう、即ちぬいだり着せたりし易いように、して置いて下さい。又雨の日雪の日、途中なるべくぬれないやうにして、登園させて下さい。